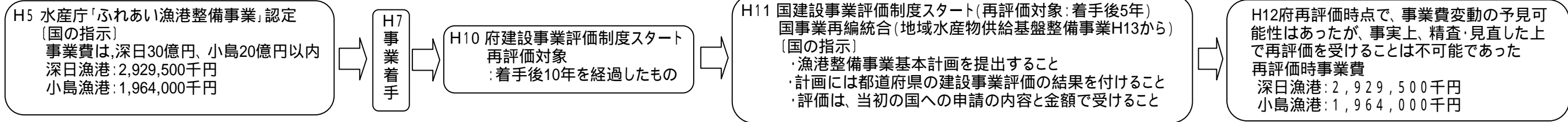


事業費変動の予見可能性について(国の方針変更による事由)



事業費の削減について

	再評価後の削減	現時点	今後の削減の考え方	今後の削減
深日漁港	<p>上記国の方針により事業費変動の精査ができない中、委員会の意見に対応すべく、種々の削減努力を行ったところ、削減できた部分もあったが、削減困難な部分もあった。</p> <p>削減した事項 【既存施設の有効活用】 深日漁港 【削減額: 173,000千円】 ・既存防波堤を有効活用することで、新設防波堤延長を削減</p> <p>小島漁港 【削減額: 437,500千円】 ・既存防波堤や物揚場の有効活用で新設護岸や物揚場を削減</p>	<p>既存施設の活用 防波堤撤去 内海創造(埋立中止)</p> <p>事業費: 3,378,000千円 【再評価時との比較】+ 448,500千円(15.3%増)</p>	<p>既存施設のさらなる活用 【漁港機能確保した削減】 深日漁港 【削減額: 50,000千円】 ・撤去予定の防波堤を残す。</p> <p>小島漁港 【削減額: 69,000千円】 ・撤去予定の防波堤や物揚場を残す。</p> <p>なお、この場合、港内の静穏確保が困難となるので、既存防波堤を延長する。</p>	<p>既存施設を残す</p> <p>事業費: 3,328,000千円【削減額50,000千円】 【再評価時との比較】+ 398,500千円(13.6%増)</p>
小島漁港	<p>【受益者を事業主体とする計画変更】 【削減額: 100,000千円】 ・蓄養施設の設置主体を漁業者に</p> <p>【内海の計画】 深日漁港 ・埋立面積を削減</p> <p>削減出来なかった事項 ・道路: 別途事業での整備が見込めず増加 ・埋立: 海域環境保全を考慮して、埋立工法を見直さざるをえず増加 ・排水: 漁港内の水質保全を考慮し、放流場所を見直さざるをえず増加</p>	<p>既存施設の活用</p> <p>事業費: 2,201,000千円 【再評価時との比較】+ 237,000千円(12%増)</p>	<p>工法等の検討による削減 ・現場で発生する捨石、コンクリート等の再利用に努める。</p> <p>以上の削減に努めるとともに、事業完了まで3ヶ年ではあるが、その中で削減できるものがあれば、最大限の削減に努める。</p>	<p>既存施設の活用</p> <p>事業費: 2,132,000千円【削減額: 69,000千円】 【再評価時との比較】+ 168,000千円(8.6%増)</p>

両漁港で総事業費11.6%増